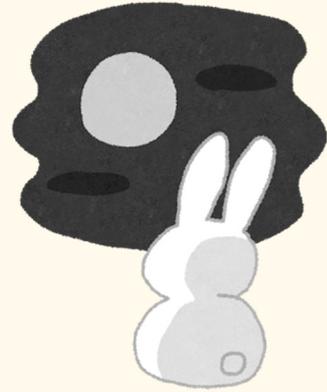


# ふいるさとのうた

剣淵文化協会俳句部会



恙なく生きる余生や酔芙蓉

西岡町 渋谷 みさ子

雷へそ取る話し懐かしき

西岡町 杉浦 とし枝

花好きの母に手向ける白い桔梗

西岡町 金澤 頼子

稲妻や畑つらめく火の柱

藤本町 鈴木 ゆき子

銀ヤマ水面に銀の影落し

仲町 坂部 和子

盆前に親の安否をたずねる娘

東岡町 高草木 喜代子

夕暮れの空は蜻蛉の恋路かな

元岡町 西崎 弘子

ヌメキンの衣の変わり初秋かな

西岡町 高瀬 久美子

秋草や天塩小嵐たもとまで

仲町 玉野 研一

朝霧や赤きバラ切り癒やしとす

元岡町 印牧 安子

木陰より羽音を立てず揚羽蝶

東岡町 高橋 世津子

寝ぐるしき蚊の羽音して真夜の星

南桜町 宮腰 幸子

収穫のエンジンの音夜更けまで

緑岡町 齋藤 嘉子

朝の水黒ひかる茄子味噌焼きに

西岡町 文梨 清子

墓参りカサブラノ力を供えくる

西原町 児玉 久美子

初秋の風はあまたの雲を押し

仲岡町 梅基 文子

ふる里の汽水嗅ぎ分け鮭還る

仲岡町 芳賀 星子

核もちて病める地球や原爆忌

緑岡町 池田 良子

古里の訛りそのままお盆かな

旭岡町 大河 博子

天と地を杓子で返す茸飯

旭岡町 宝澤 房子

水やりの手元に揚羽遊びくる

西岡町 岸波 君江